

小学校英語指導法についての一考察  
～児童の興味・関心を引く指導～

竹 田 忠 弘\*

A Study of Teaching English at Elementary Schools  
～Ways to Attract Children～

Takeda Tadahiro

要約

小学校の児童たちに発音指導をする際、語や語句、又は短文を使って発音練習をさせるよりも、簡単な英語の歌を用いて指導するほうが、歌を歌う楽しさからリズムに乗って練習することができ、歌を覚えるという達成感を得られるので、より効果的である。

また、絵本を用いた読み聞かせは、上手に行えば、子どもたちは絵と指導者のジェスチャー等を結びつけることでストーリーを理解でき、聞く力を身に付けることに役立つ。

キーワード：歌を用いた発音指導、絵本の読み聞かせ

Abstract

In teaching elementary school children how to pronounce English words, the use of simple English songs would be more effective than the pronunciation practice of words, phrases or short sentences. This is because singing songs is fun and gives them a sense of achievement.

In addition, reading picture books aloud to children, if conducted well, helps them to acquire listening skills because they are able to understand the story by linking the pictures to the teacher's gesture, etc.

Keywords: Pronunciation Practice with Songs, Reading Aloud Picture Books to Children

---

受理年月日：2019年12月25日 \*高松大学発達科学部 准教授

## はじめに

2019年度も昨年度に引き続き大学の前期授業で「外国語活動（英語）指導法研究」を担当した。受講生は発達科学部子ども発達学科の児童教育コースを専攻している4年生9名で、全員が小学校の教員を目指していた。受講生9名は、教員採用試験に向けて正に“**One Team**”で早くから協同の学びを続けてきた集団であり、受講生全体の授業に対する取組は極めて意欲的かつ積極的であった。将来、小学校教員として児童に英語を教えることになる学生に直接接して、英語の学習が楽しいと思わせることが最重要であると考えた。学生たちに英語の学習が「苦」ではなく「楽」であることをしっかりと植え付けることで、将来小学校教員になって子どもたちに英語の楽しさを教えることができるであろうと考えた。授業中は、前述のとおり熱心な学生が多かったので、アクティブに言語活動が行われ、活気のある授業づくりができた。しかしながら、時間が限られている中で、実際に演習できる内容は少なく、授業で実践し本研究ノートで紹介するのは、英語の歌を用いた発音指導と絵本の読み聞かせの2点である。

小学校学習指導要領（2017）によると、2020年度から小学校第3・第4学年で「外国語活動」が、第5・第6学年で「外国語」が導入されることになっているが、香川県内の小学校では、すでに先行実施されており、中には、市教育委員会の研究指定校として、1年生から6年生まで全学年全児童が英語を学んでいる学校もある。2019年7月24日、昨年同様、香川県小学校教育研究会高松支部外国語部会夏季研修会に参加させてもらった。講師は、再び神戸市外国語大学院教授横田玲子氏であった。本研修会で学んだ様々な指導法の中で最も面白いと思ったのが、絵本の読み聞かせであった。受講者が絵本を一冊ずつ持ち寄り、ペアで読み聞かせの練習をするという活動があり、また講師が渾身の力を込めて、いくつかの絵本の一部を読み聞かせてくれた。教員研修の内容として極めて有効であると実感した。学生に体験させた絵本の読み聞かせが意味のある活動であったこと、また、もっと時間をかけて感情の出し方も含めて指導をすることが重要であると認識した。

本研究ノートでは、はじめに、小学校で英語を教える教員に求められる資質について考察し、次に授業で実践した英語の歌を用いた発音指導と絵本の読み聞かせの過程と結果を報告し、今後の研究及び授業改善の一助としたい。

### 1. 小学校で英語を教える教員に求められる資質

小学校で英語を教える教員に求められる資質は何であろうか。発音のよさ、会話力、与えられた教材や教科書を用いて補助教材等を準備し授業を組み立てる力など、枚挙にいとまがない。樋口、加賀田、泉、衣笠（2017, p.33）は、文部科学省委託事業『英語教育の英語力・指導力強化のための調査研究事業—平成28年度報告書』（東京学芸大学2017）を参照し、小学校の外国語指導者に必要な資質や能力を次のようにまとめている。

<外国語指導に関する知識や実践力>

- ① 小学校外国語教育の意義や目的論について理解している。

- ② 指導目標や領域別目標を作成し、その目標に則して年間指導計画や学習指導案の作成ができる。
- ③ ICT等を効果的に活用したり、既成の教材を児童の実態に合った教材に改良、改善したりすることができる。また、教材を発掘したり、教材開発をしたりできる。
- ④ 指導法や指導技術についての知識やスキルを備えている。また、それらを児童の実態に合わせて改良、改善することができる。
- ⑤ ALT等とのTTによる指導のあり方を理解し、担任の果たす役割について理解できる。
- ⑥ 評価についての知識と実践力を備えている。
- ⑦ 小・中・高等学校との連携のあり方、またその中での小学校の果たす役割を理解し、指導に生かすことができる。

#### <英語運用能力>

- ・音声、語彙、文法、言語の働き等について、知識・理解レベルでは少なくとも高校卒業程度の英語を身につけており、運用レベルでは少なくとも中学卒業程度の英語をある程度使いこなすことができる。
- ・授業で扱う英語表現を正しく使うことができる。
- ・発音や強勢・リズム・イントネーションを意識した発話ができる。
- ・身近な話題や日常生活について簡単な会話ができる。
- ・身近な話題や日常生活についてあらかじめ原稿を作成、準備して small talk ができる。
- ・児童の発話や行動に対する適切な言い直しや、児童の理解に合わせた適切な言い換えができる。
- ・児童の発話や行動に対する即興的な反応ができる。
- ・感情を込めて絵本の読み聞かせができる。
- ・教室英語を流暢に使うことができる。
- ・簡単な英語を使って、ALTと打ち合わせができる。

#### <初等外国語教育関連分野についての知識>

母語習得、第二言語習得、国際理解教育、異文化理解コミュニケーション、発達心理学などの関連分野の基礎的な知識を備えている。

このように、英語を教えることとなった小学校の教員は、実に多くの資質や能力を求められている。これほどオールマイティーでなければ、よい授業はできないということであろうか。多忙な中、常に教員は研究と修養に努めなければならない。そしてそれは、教員である限り続けていかなければならないことであり、そうでなければ、上記の資質、能力を備えることは極めて難しいであろう。したがって、これらの資質や能力を身に付けることが求められている学生を前にして大学教員ができることは極めて少ない。そこで筆者は、上述の求められる英語運用能力の中で、「発音や強勢・リズム・イントネーションを意識した発話ができる。」と「感情を込めて絵本の読み聞かせができる。」の育成を目標に、指導を行った。

## 2. 身近な歌を利用した発音指導

次の一節は、アメリカ合衆国のフォークソング・グループ Peter, Paul & Mary が 1963 年にリリースした “*Puff, The Magic Dragon*” という楽曲である。日本の小学生には、童謡としておなじみの曲である。というのも小学校 3 年生の音楽の教科書に掲載されており、児童は日本語訳の歌詞で歌っているからである。そこで、同曲を小学校の英語の授業においても活用し、英語の発音指導に使うことができると考えた。その過程と結果を紹介する。

まず、学生たちに曲全体を聴かせ、メロディーを知っているか否かを確認した。学生たちの中には、「あーっ、この曲知ってる。」、「小学校のとき、歌った。」など、反応は上々であった。発音指導に使うフレーズは、歌い出しの 2 行、リフレインの部分である。全体で 7 節ある中で 3 節半がこの部分の繰り返しになっている。したがって、この最も特徴的な歌詞及びメロディーを確実に指導して覚えさせることで、この英語の歌に大きな興味・関心を抱き、発音にも「気付き」が見られると考えた。

### Puff, The Magic Dragon

Puff, the magic dragon lived by the sea  
And frolicked in the autumn mist in a land called Honah Lee,  
Little Jackie Paper loved that rascal Puff,  
And brought him strings and sealing wax and other fancy stuff. Oh!

Puff, the magic dragon lived by the sea  
And frolicked in the autumn mist in a land called Honah Lee,  
Puff, the magic dragon lived by the sea  
And frolicked in the autumn mist in a land called Honah Lee.

Together they would travel on a boat with billowed sail.  
Jackie kept a lookout perched on Puff's gigantic tail,  
Noble kings and princes would bow whene'er they came,  
Pirates ships would lower their flags when Puff roared out his name. Oh!

Puff, the magic dragon lived by the sea  
And frolicked in the autumn mist in a land called Honah Lee,  
Puff, the magic dragon lived by the sea  
And frolicked in the autumn mist in a land called Honah Lee.

A dragon lives forever but not so little boys  
Painted wings and giants' rings make way for other toys.

One grey night it happened, Jackie Paper came no more  
And Puff that mighty dragon, he ceased his fearless roar.

His head was bent in sorrow, green scales fell like rain,  
Puff no longer went to play along the cherry lane.  
Without his lifelong friend, Puff could not be brave.  
So Puff that mighty dragon sadly slipped into his cave. Oh!

Puff, the magic dragon lived by the sea  
And frolicked in the autumn mist in a land called Honah Lee,  
Puff, the magic dragon lived by the sea  
And frolicked in the autumn mist in a land called Honah Lee.

下線部：脚韻（筆者）

はじめに、学生に気付かせることがあった。それは、歌詞の各行の最後の語が2行ずつ韻を踏んでいるということである。英語の詩や歌詞は脚韻を踏んでいる。このリフレインにおいては、sea と Lee、Puff と stuff の二組であるが、他の節においても脚韻を踏んでいるので、「何か気付くことはないか。」と問い掛け、自ら気付かせた後で、発音指導を兼ね、リピート練習により同音であることを認識させた。子どもたちを指導するときにも、同様に「気付き」から指導に入ることを示唆した。

次に、発音を具体的に指導する。その一部を示す。

1行目：Puff の破裂音 [p] と摩擦音 [f]、the の [ð]、magic の [æ] と [k]、dragon の [dræ] と [gn]、lived の [d] など。

2行目：frolicked の再度出てきた [f]、[r] と [l] の違い、-cked の [kt]、the [ði]、in a のリエゾン、called の [d] など。

各語の発音の仕方を、筆者の口の動きをしっかりと観察させながら、時には口の中の舌の位置を図示しながら教える。一語ずつゆっくりと発音させ、次にチャンクごとにメロディーを付けて発音させるのである。このリフレインは、曲全体で7回出てくるので、これさえ正しくマスターすれば、同曲を楽しく歌うことができると考えた。受講生も9人と少なかったもので、時間さえ許せば、一人一人ゆっくりと歌わせて、発音の矯正をすることが可能であったであろう。この点は今後の課題である。

発音指導を歌の一節を利用して行うことの利点は、やはり楽しいことである。Jazz Chants (Carolyn Graham, 1978)が楽しいように、強弱や抑揚をつけてまとまった英文を発音することは子どもたちにとって興味深い活動であろう。それが歌であればなおさらで、自ら歌えるようになるので、練習にも身が入る。筆者が教えていた学生の場合、休み時間

などの授業中ではない時間帯に、“Puff, the magic dragon…”などと口ずさんでいる声が聞こえてくると、適切な選曲ができたと思えた。

ただ、授業で本格的に発音指導を行ったのは、サビの2行だけであったので、曲全体をスムーズにCDについて歌えるようになったわけではなかった。しかしながら、歌を楽しむこと、楽しみながら発音指導もできることが指導目標であったので、目標を達成したと考えている。

また、本楽曲を題材にした絵本が出版されており、絵本を見せながらCDに合わせて歌い、また、歌詞の読み聞かせも実施した。歌詞を渡しておいて、CDについて歌っていたが、やはり視覚的な教材を提示することができれば、学習者の興味・関心は増大し、特に覚えてしまったサビのフレーズは特に大きな声でCDに合わせて歌うことができていた。

絵本を利用した英語の指導は、指導者が上手に行えば、子どもたちに英語を好きになってもらえると思ひ、別の絵本で実践してみることにした。

### 3. 身近な絵本を利用した聞く指導

絵本を用いて、子どもたちの視覚及び聴覚をくすぐり、英語に興味を持たせることができると考えた。酒井、滝沢、亘理（2017, pp.166）は、「絵本は英語を学び始めた児童にとって大変有用な学習教材になりうる。絵本を使ったストーリーテリングは、読み聞かせという音声のインプットに加えて、絵本の中の絵によって、音声では理解できない語句や表現をその意味と結び付けることができるからである。」と絵本の利用を推奨し、*The Very Hungry Caterpillar*を、酒井、滝沢、亘理（2017, pp.168-169）は、「『はらぺこあおむし』という邦題で日本の子どもたちにはすでにおなじみの絵本の原作である。食べ物の名称、その数え方、曜日の名前のみならず、青虫がさなぎになり、やがて蝶々になるというライフサイクルもカラフルな絵で描かれている。」と紹介している。

また、小川、東（2017, p.186）は、「日本語の簡単な絵本を教室で読んだら中学年以上では「もう一度読んで」とは言わないでしょう。しかし、*The Very Hungry Caterpillar*を実際に教室で活用している場面を見ると、児童は真剣に絵本を見ながら、先生の読み聞かせを聞いています。児童にとって日本語では簡単すぎるような絵本でも、英語になると違うのです。これは *The Very Hungry Caterpillar* が持つパワーです。この絵本は子どもたちの年齢、認知的・情緒的な発達などに応じていかようにも対応できるのです。」と太鼓判を押している。

そこで、筆者は英語絵本 *The Very Hungry Caterpillar* (by Eric Carle, Philomel Books) の読み聞かせを実施した。手順は次のとおりである。

#### The Very Hungry Caterpillar

（「はらぺこあおむし」という日本語訳も言ってやり、おなかを押さえて空腹のジェスチャーをする。）

In the light of the moon a little egg lay on a leaf.

(教室の電灯を指さし、月の絵を指す。葉の上にあおむしの卵がある絵に注目させる。)

**One Sunday morning the warm sun came up and pop!**

(カレンダーを用意しておいて、日曜日に気付かせ、太陽の絵を指す。pop のポンとはじける様子をジェスチャーで表す。)

**Out of the egg came a tiny and very hungry caterpillar.**

(卵からあおむしが孵化する絵を指す。また、tiny や hungry も同様にジェスチャーで示す。)

**He started to look for some food.**

(何かを探すジェスチャー、ものを食べるジェスチャー)

**On Monday he ate through one apple.**

(カレンダーに注目させて月曜日だと理解させ、穴の開いたリンゴの絵により、through の感覚をつかませる。)

**But he was still hungry.**

(空腹のジェスチャー)

**On Tuesday he ate through two pears,**

(カレンダー利用。One, two. と数えて絵を指し、2個の梨と空いた穴に気付かせる。)

**but he was still hungry.**

(空腹のジェスチャー)

**On Wednesday he ate through three plums,**

(カレンダー利用。One, two, three. と数えて絵を指し、3個のスモモと空いた穴に気付かせる。)

**but he was still hungry.**

(空腹のジェスチャー)

**On Thursday he ate through four strawberries,**

(カレンダー利用。One, two, three, four. と数えて絵を指し、4つのイチゴと空いた穴に気付かせる。)

**but he was still hungry.**

(空腹のジェスチャー)

**On Friday he ate through five oranges,**

(カレンダー利用。One, two, three, four, five. と数えて絵を指し、5つのオレンジと空いた穴に気付かせる。)

**but he was still hungry.**

(空腹のジェスチャー)

**On Saturday he ate through one piece of chocolate cake,**

(カレンダー利用。指で1を示し、チョコレートケーキの絵を指す。)

**One ice-cream cone,**

(指で1を示し、アイスクリームコーンの絵を指す。)

**One pickle,**

(指で1を示し、ピクルスの絵を指す。)

**One slice of Swiss cheese,**

(指で1を示し、チーズの絵を指す。)

**One slice of salami,**

(指で1を示し、サラミの絵を指す。)

**One lollipop,**

(指で1を示し、ペロペロキャンディーの絵を指す。)

**One piece of cherry pie,**

(指で1を示し、サクランボパイの絵を指す。)

**One sausage,**

(指で1を示し、ソーセージの絵を指す。)

**One cupcake,**

(指で1を示し、カップケーキの絵を指す。)

**And one slice of watermelon.**

(指で1を示し、スイカの絵を指す。)

**That night he had a stomachache!**

(夜になったことを、おやすみのジェスチャーで示し、おなかを押さえて苦しむ様子を見せる。)

**The next day was Sunday again.**

(翌朝と曜日はカレンダー利用。)

**The caterpillar ate through one nice leaf,**

(絵を見せながら、口をもぐもぐさせてにこりと微笑み、葉っぱが美味しいことを示す。)

**and after that he felt much better.**

(おなかの具合がよくなったことを、おなかを軽くたたいて指でOKマークを作って見せる。)

**Now he wasn't hungry anymore-**

(おなかを押さえたのちに、anymoreは両腕で×印を作って見せる。)

**and he wasn't a little caterpillar anymore.**

(little と big の違いを指及び腕を使って示し、anymoreは腕を×印にして見せる。)

**He was a big, fat caterpillar.**

(大きく成長したあおむしの絵を見せる。fatはジェスチャーで示す。)

**He built a small house, called a cocoon, around himself.**

(あおむしが自分の周りに小さな家、繭を作ったことを手のジェスチャーで示す。)

**He stayed inside for more than two weeks.**

(2週間以上繭の中にいたことを、カレンダーと眠る動作で示す。)

**Then he nibbled a hole in the cocoon, pushed his way out and ...**



(繭(さなぎ)の内側から、少しずつかじって穴を開け、出て来る様子を、口や手を使って動作で示す。)

**He was a beautiful butterfly!**

(絵本を高く掲げて絵を見せる。)

以上が一連のパフォーマンスであるが、教員が一人で実施するには難しい場面がある。可能であればTTで行うとスムーズに進行するであろう。

絵本の意義について、樋口、加賀田、泉、衣笠(2017, pp.97-98)は、次の6点を挙げている。

#### 絵本の意義

- 1) ある程度まとまりのある英語を聴くことを通して、英語特有の音・リズム・抑揚などに触れることができ、英語の文法構造に無意識のレベルで触れることができる。
- 2) イラストと理解可能な言葉をヒントに前後関係などから、未知の表現や語彙の意味を類推・推測する力や、大意をつかむ力を育む。
- 3) 王様や蛙など日本の絵本ではあまり扱われないモチーフや、イラストに描かれる事物・自然・建物・衣服・生活習慣などを通して異文化に触れ、異文化への興味・関心が高まる。
- 4) 外国の民話など、その国特有の物語の展開を通して異なる世界観や価値観に触れ、無意識のレベルで異文化の深層に触れることができる。
- 5) 中・高学年になると、文字にも興味に向くようになり、音と文字とのつながりに興味・関心が高まる。また文字を意識しながら、指導者について何度も繰り返しているうちにしだいに音読の力が育つ。
- 6) 絵本にはメッセージ性の高いものが多く、こころの成長を助ける。

この中で、筆者が実践した結果、有効だと感じたのは、1)の「まとまりのある英語を聴くことを通して、英語特有の音・リズム・抑揚などに触れることができる。」ということ、2)の「イラストと理解可能な言葉をヒントに前後関係などから、未知の表現や語彙の意味を類推・推測する力や、大意をつかむ力を育む。」ということの2点である。5)の音読の力を育成する活動や6)のこころの成長を助けるような内容の絵本も今後取り入れていきたい。

また、数冊の英語絵本を学生に提示して、ペア又はグループで一編を選び、協力して読み聞かせをする演習も実施した。その絵本の内容は、日本の昔話や名作をわかりやすい英語で親しめるよう、児童がそのストーリーを知っているものにした。『ももたろう』、『おむすびころりん』、『アリとキリギリス』など、児童がそのストーリーに親しんでいる題材を選び、絵本を見せながら読み聞かせをすることは、絵とすでに知っている内容と英語の音声結び付き、無意識のレベルで英語にふれることができると考えられる。

3人ずつの3グループで実施し、英文を情感たっぷりに読む練習であったが、学生はよく練習をして臨んだ。はじめに筆者が、『うさぎとかめ』を、受講者を対象に読み聞かせた。小学生にはもちろんのこと、英語を専攻しているわけではない小学校教員志望の学生たちにとっても難しい語彙は出てくるが、そのギャップを補うものとして絵があり、これまでの知識があり、また読み聞かせる指導者のジェスチャー等の身振り手振りが功を奏し、絵本の内容理解へとつながるのである。

## まとめ

小学生に英語を教える際に、教員が常に心に留めておかなければならないことは、英語の学習を楽しいと思わせることである。そのためには、学ぶ楽しさを感じるような仕掛けとして、子どもたちの興味・関心を持続させる教材開発が必要である。英語の歌の活用で発音指導を楽しい活動にすることが可能である。また、聞く力を育成するために視覚的にも楽しく学べる絵本の利用が効果的である。

小学校教員は、子どもたちが楽しく学べる本当によい教材を見出し、その利用の仕方を研究するとともに、授業で実践していくことが求められている。

## 引用文献

- ・樋口忠彦、加賀田哲也、泉恵美子、衣笠知子（2017）『新編 小学校英語教育法入門』研究社 p.33, pp.97-98
- ・酒井英樹、滝沢雄一。亘理陽一（2017）『小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ』三省堂 p.166, pp.168-169
- ・小川隆夫、東仁美（2017）『小学校英語 はじめる教科書 外国語科・外国語活動指導者養成のために—コア・カリキュラムに沿って—』mpi 松香フォニックス p. 186
- ・Lenny Lipton（1963）“*Puff, The Magic Dragon*”
- ・Eric Carle（1969）“*The Very Hungry Caterpillar*”

## 参考文献

- ・小学校学習指導要領（2017）